

国見地区の誇り

悠久の歴史と自然の豊かさが今に残る「国見」



毎年1月2日、白浜漁港で大漁祈願の餅まき行事。昔、出雲の国で戦いに敗れた武士が、船で若狭湾を經由して白浜町へ移住した時の伝統が、今も継承されている。舟祝いは漁師が大漁と海上安全を願い、船主が船の周りに集まった大衆に餅を撒く行事。船主は舟祝いの前々日の大晦日、地区の神明神社で「海上安全」を祈願する。当日は「幸運の餅」を拾おうと地区住民はもとより、メディアで取り上げられるため、県内外からの来浜者もあり今も大いに賑わっている。



鮎川町の消波壁「ブルーシー鮎川」を会場として、国見地区の風土や文化を全面に押し出し、スタッフは地区民挙げて全員参加し「海」に関する体験型のイベントを展開している。①筏の瀬渡し②魚の掴み取り③カヌー体験④海女桶体験など一日中親子で楽しめる。また、食の市テントがズラッと並び、毎年右肩上がりの来場者で賑わっている。

昔、この地区(小丹生町)に幾日も雨が降らず、困り果てた村人が氏神様(春日神社)に雨乞いをしたところ、期せずして田畑に恵みの慈雨が降り注いだ。その時、村外れの断崖絶壁に、右は草履と左に足袋型があるのを発見(写真)。以来、ここを神域として「神の足跡」と名付け、現在に伝承されている。(写真:左「春日神社」、右「神の足跡」)



国見公民館 館長
重森 俊道さん

当国見地区は神仏に対する畏敬の念篤く、古来より継承されている伝承行事を大切にしている。永い歴史の中で先人が残した尊い「歴史や文化」に誇りと自信を持ち、新しい方向性を目指して、更なる地域の活性化に取り組んで行かなければならないと常に思っている。

国見公民館

住 所／福井市鮎川町195-7
電 話／0776-88-2004
交通機関／京福バス「国見公民館前」バス下車